

グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内 1 丁目 3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp



四国山の日

No.1109 2012年 8 月号

四国ブロック

平成24年度『准フォレスター研修』開催

准フォレスター研修が7月9日から高知市内のホテルで行われ、
第1回の研修は四国四県から21名が受講しました。（詳細は2頁）



新木四国森林管理局長から開講にあたっての挨拶



森づくりの構想実習：発表



間伐実行監理演習

平成二四年度准フォレストスター研修 「四国ブロック」始まる

〈森林技術センター〉

平成二四年度の准フォレストスター研修が七月九日から高知市内のホテルにおいて始まり、第一回の研修は四国四県の県職員二二名が受講しました。

研修の講師には、林野庁及び四国森林管理局の職員をはじめ、大学教授や団体職員等の外部講師を招き行われました。

准フォレストスターは、平成二三年度から始まった新たな森林計画制度の下で、市町村が策定する「市町村森林整備計画」や森林所有者等が策定する「森林経営計

画」について、その認定・実行監理等を支援する県や国有林の職員です。

林野庁では、この准フォレストスターを育成するため平成二三年度から全国を七ブロックに分けて研修を行っており、四国森林管理局においても、昨年度に引き続き本年度も研修（第一週は五日間、第二週は四日間）を二回実施することとしています。

研修の開講式では、新木四国森林管理局長の激励の挨拶から始まりました。

研修の内容は、森林・林

業再生プランの概要、フォレストスターの役割、地域の森林・林業の将来ビジョンと市町村森林整備計画、森づくりと森林経営計画、森づくりの構想、木材の流通・販売、林業労働安全、プレゼンテーション、間伐実行監理演習、森林資源循環利用構想策定演習、市町村森林整備計画演習などとなつていきます。

森づくりの構想及び間伐実行監理演習では、四万十森林管理署管内の新道山国有林（高知県中土佐町）を演習フィールドとして、人工林施業における目標

林型や当面の施業方法の検討や森林作業道整備の検討等について現地演習を行いました。

今回の二二名の研修生は九月三日からの研修Ⅱ（第二週目四日間）を受講した後、准フォレストスターとし



グループ討議を通じ、実効性のある研修を目指す

林型や当面の施業方法の検討や森林作業道整備の検討等について現地演習を行いました。

今回の二二名の研修生は九月三日からの研修Ⅱ（第二週目四日間）を受講した後、准フォレストスターとして市町村森林整備計画の策定等の支援業務を行いながら地域の森林づくりの全体像を描くとともに、市町村が行う行政事務の実行支援を通じて、地域の森林づくりと、森林・林業の再生を担う人材となることが期待されています。

業再生プランの概要、フォレストスターの役割、地域の森林・林業の将来ビジョンと市町村森林整備計画、森づくりと森林経営計画、森づくりの構想、木材の流通・販売、林業労働安全、プレゼンテーション、間伐実行監理演習、森林資源循環利用構想策定演習、市町村森林整備計画演習などとなつていきます。

森づくりの構想及び間伐実行監理演習では、四万十森林管理署管内の新道山国有林（高知県中土佐町）を演習フィールドとして、人工林施業における目標



間伐実行監理実習（作業道整備の検討）

先生方も童心に返って

―森林環境教育サポート講座―

〈ふれあいセンター〉

ふれあいセンターでは、平成一九年度から森林環境教育に関する指導者の裾野の拡大を目的とした研修会「森林環境教育サポート講座」を開催しており、昨年度までに高知県と愛媛県の延べ二八名の先生方が受講しています。

高知県での研修会は、昨年までは地元西土佐地区の津野川小学校で行ってききましたが、昨年度末に西土佐地域の六小学校が一校に再編されたことから、今年は七月二六日に四万十市中心部にある市立中村南小学校で、県



講義風景（愛媛県）

また、愛媛県についても従前は松野町内の小学校を会場としてきましたが、今回は八月一日に宇和島市の

市立宇和津小学校で開催しました。アクセスに恵まれたこともあり、松野町、宇和島市、愛南町の九小学校から一名の先生方が受講しました。

「講座」は森林・林業に関する知識や技術、指導方法等を「楽しく体験・習得」をモットーに、「当センターの活動、森林環境教育の重要性」及び、教科書補完プログラムの中の「空飛ぶ種子」「土壌にすむ生物」「炭焼き体験」「木工クラフト」を選定し、実験・実技を多く取り入れたものとなりました。

「空飛ぶ種子」では、植物が風や動物を利用するなど、様々な方法で種子を散布することを紹介し、アルソミトラやマツ、ニワウル

シ等の種子の模型を作り、それを飛ばして実際の飛び方を確認しました。

「土壌にすむ生物」では、約一ヶ月前に校庭の片隅に埋めておいた野菜などの生ゴミ、落ち葉、ペットボトルなどを掘り起こし、腐り具合や土の臭いを嗅いだりして確認した後、土壌を採取して顕微鏡で微生物を観察しました。

「炭焼き体験」では、折



土壌生物観察中（高知県）

り鶴・ドングリ・マツボツクリなどが光沢のあるきれいな炭になりました。また、「木工クラフト」は、熱中症が心配されるほどの入れ込みようでした。

研修両日とも、うだるような暑さに加え、愛媛県で開催した八月一日は台風一〇号が接近し、スケジュール変更を余儀なくされるなどのハプニングもありましたが、両会場とも先生方の童心に返った微笑ましい光景や歓声が絶えることのない楽しい研修会となりました。

実施後のアンケートでは、「森林の働きや身近な環境を考えるきっかけになった」「森・川・海のつなが

りが分かりやすかった」「実験・体験が良かった」「多くの教科で関連したものがあ、是非取り入れたい」などの心強い感想をいただきました。

会場、機材等を快く提供していただきました中村南小学校及び宇和津小学校には、紙面を借りてお礼申し上げます。



炭焼き準備

各地のたより



ふれあい高城の森で

ボランティア活動

〈徳島森林管理署〉

七月一九日、徳島県那賀町釜ヶ谷国有林一〇三林班の「ふれあい高城の森」で、ボランティア活動が行われました。

ふれあい高城の森(四五九ha)は、平成一五年に(社)高知林業土木協会を母体とする「四国の森づくりに参加する会」と協定を締結し、人工林の間伐や広葉樹下木の植栽、保育など、公益的機能の高い森林づくりを目標に、

毎年二回、森林整備を実施しています。

当日は天候に恵まれ、徳島県及び香川県のボランティア二一名と当署から署長、森林官、森林ふれあい係長が参加しました。



イロハモミジを植樹中

まず、この場所でのボランティア活動が一〇年を迎え感謝無量であるとの会長挨拶があり、署長がお礼を述べた後、作業手順を確認して、二人一組で針広混交林に誘導するため、ケヤキ、イロハモミジ、コナラの苗木八〇本の植栽を行いました。

え込み、参加者は約二時間、気持ちのいい汗を流しました。最後に、署長のニホンジカ被害に関する話で閉会しましたが、このような取組は、今年度中にもう一度実施される予定です。

この付近でもニホンジカによる被害が激しいため、植栽と同時に、ツリープロテクターの設置が欠かせません。支柱を打ち込んでツリープロテクターを設置し、広葉樹の苗木を丁寧に植

たボランティアと協力して森林の整備を進めることを通じ、森林の有する公益的機能の高度発揮を図り、市民の理解と協力が深まるように取り組んでいきたいと考えています。

苗木を丁寧に植



樹名板取り付け

巡視員と

登山道を整備

〈徳島森林管理署〉

七月二〇日、徳島県剣山地域の巡視員と協力して、登山道の整備を行いました。自然休養林に指定されている剣山地域では、その適切な保護・管理を行うため、剣山山頂ヒュッテの新居さんなど、

三名の巡視員を任命してありますが、今回、三好市東祖谷見ノ越の剣神社から西島に至る登山道（名頃谷山四七林班）について、当署から六名が参加し、巡視員と協力して整備を行ったものです。

三名の巡視員を任命して代表する樹木に取り付けました。ここでも、ニホンジカが好むリョウブやノリウツギなどの剥皮被害がひどく、ニホンジカ対策を講じる必要性があることを実感しました。

また、登山道については、多くの登山者が利用する主要な登山道であるため、凹凸を均し、転石の除去や水切りを行うなどして、登山者の安全な歩行ができるようにしました。

一〇時に見ノ越に集合した一行は、二手に分かれて、樹名板の取り付けと登山道の整備を行いました。

樹名板は、あらかじめ登山道周辺の樹木を調査し、防腐木材で製作していったもので、西島から下りながら、ブナやヒノキなどの巨樹、ナナカマド、ヒメシヤラなどの冷温帯

樹木を調査し、防腐木材で製作していったもので、西島から下りながら、ブナやヒノキなどの巨樹、ナナカマド、ヒメシヤラなどの冷温帯

は、多くの登山者が利用する主要な登山道であるため、凹凸を均し、転石の除去や水切りを行うなどして、登山者の安全な歩行ができるようにしました。

なお、当日はテレビ局も取材に同行し、新居さんらの作業状況を収録していました。

あいにく、午後から激しい雷雨となったため、途中で作業を打ち切りま

あいにく、午後から激しい雷雨となったため、途中で作業を打ち切りま

あいにく、午後から激しい雷雨となったため、途中で作業を打ち切りま

あいにく、午後から激しい雷雨となったため、途中で作業を打ち切りま

シラクチカズラの

苗木作りを実施

〈徳島森林管理署〉



したが、当署としてはこうした取組を通じて、「国民の森林」としての利便性、安全性の向上や、国有林に対する一層の市民の理解と支援をいただけるように努めていきたいと考えています。

学校生徒一七名（一年生から三年生）が参加して、シラクチカズラ（サルナシ）の挿し木苗作りなどを実施しました。

かずら橋の材料であるシラクチカズラは年々採取が困難になっていることから、当署と木の文化を支える森（祖谷のかずら橋・架け替え資材確保の森）の協定を結び、実行委員会が中心となって、シラクチカズラの安定的確保のための様々な取組を実施しています。今回行った挿し木苗作りは、この一環としておこなわれたもので、今回で四年目となります。

当日は、実行委員会長の平栗氏より、当委員

当日は、実行委員会長の平栗氏より、当委員